でーれーＢＯＯＫＳ２０１４　ノミネート作品コメント集

（得点は２次投票の１位６点、２位４点、３位３点で集計）

**大賞　　　島はぼくらと　辻村深月　　５１点**

・「別れは笑顔で」は難しい。瀬戸内の島から本土へ通う高校生と地域を丁寧に描いた作品。

・懐かしくて、あったかくて、ちょっぴり泣ける。

・高校生が主人公。4人が4人とも、それぞれに悩みを抱え、向き合っていく姿が良い。素朴な島が舞台で、純粋に生きる高校生と、その裏側も見せてくる大人。大人の階段上り途中の高校生にはバッチリな本だと思う。やっぱり高校生のうちに読んでおいて欲しい作家だなと再確認。

・予想外にスケールの大きな結末にびっくり。

・４人の高校生がとにかく、いい子！かわいい！応援したくなる子たちです。

・将来への不安も、友達との絆も淡い恋も、全てがリアル。ぜひ高校生の今、読んでほしいです。

・大人に近づいていく高校生たちの心情をよく描いている。

・卒業を前にした島の高校生の最後の夏の日常が淡く切ない。意外なラストに思わず笑みがこぼれました。

・いい意味で裏切られました。素晴らしい作品です。

・小さな島での不便さもあるが、こんな高校生活に憧れもあるのではないか。

・進路、友だち、家庭、恋愛など高校時代に思い悩む要素がギュッと詰まった物語。

・島に４人だけの高校生が周りの大人と関わって逞しく生きていくところがいい。

**小説２位　あと少し、もう少し　瀬尾まいこ　　４３点**

・特別ではない中学生６人それぞれの生活や感覚をリアルに描く。駅伝で襷をつなぐ姿はカッコイイ。

・「一生懸命」は、ヤンキーもいけすかないヤツもキュートに見せる。頑張れ、あと少し！　一緒に応援した。

・自分で思っている自分と、他人から見た自分はこんなにも違うのかという、いい意味での驚き。

・誰もが人知れず悩みを抱えていること、誰もが他の人にはない魅力を持っていることが伝わってくる本です。

・一生懸命になることの素晴らしさをストレートに感じた。まさに青春小説。

・久々にさわやかな小説に出会えました。６人の生徒の友情と成長ぶりが楽しく読めました。

・登場人物が魅力的。リアルな学校生活が身近で、笑える場面もあり。

・自分の見方と、他人からの見られ方の対比がいい塩梅になっている。

・いろんな思いや悩みを持ちながら、駅伝で襷をつなぎ、みんなでやりとげるところがいい。

**小説３位　生きるぼくら　原田マハ　　３４点**

・不器用だって、惚けてたって、引きこもりだって、「僕らはみんな生きている」生命賛歌。

・震災直後に連載が始まったこの物語に、自然と人間の力を深読みせずにはいられない。

・いじめから引きこもりになった青年とか、就活に失敗した青年とか。登場人物とは違う形でも、結構大きな挫折を味わうことって、高校生くらいになると増えてくると思う。米作りで回復していくのはそりゃ特殊な例だけど、違う環境で、新たなステージでがんばればリスタートできるんだって思える。最後お母さんと会うシーンも良い。

・田舎暮らしは甘くないけれど、この再生力は田舎ならでは。納得の読後感。

・生きていくことの尊さを感じられる。

・不器用な面を持つ登場人物が「米作り」を通して、前向きに生きようとする姿がいい。「食べる」がおざなりになっている今、改めて「食」のことを考える機会になると思う。

・いろんなストレスを抱えた引きこもりの青年がじわじわと成長していくところがいい。

**小説４位　旅猫リポート　有川浩　　３２点**

・大泣きすることでスッキリ。命のいとおしさが溢れます。

・誰かとつながって生きるから、人間なんだ。

・なんといっても人気作家。自信を持って感動をお届けできます。途中で展開は読めてしまうかもしれないけど、それでもラストはグッとくる。表紙イラストが最近の子にはどういう印象か分からないが、とりあえず最初の1冊としても最適。

・猫は何でも知っている・・・

・犬派の人でも、ちょっと、猫良いなって思えること請け合い（私がそうでした）。

・人と人との絆、猫と人との絆に感動させられる。

・猫の視点から登場人物を描いていて面白い。猫と人間の友情にラストは涙なしには読めません。

・猫好きにとっては、猫と一緒に旅をするという状況だけでニヤニヤできる。

・身近な大切なものを、改めて大切にしたいと思える。

**小説５位　ランチのアッコちゃん　柚木麻子　　２２点**

・よだれが垂れるようなランチの数々と、「ちゃん」より「様」がぴったりくる女史の言葉は、まさに読む栄養剤。

・たまにはお昼に外に出てみようかと思いました。元気が出ます。

・話のテンポがいいです。「食べることは、生きること」とても大切だなと改めて思った。

・ランチ（お弁当）って良いなあ、と素直に思える。高校生にも共感してほしい。

**一般１位　おもかげ復元師　笹原留似子　　４６点**

・国際霊柩士の『エンジェルフライト』とどちらを推すか迷いました。今だからこそ命の尊さを考えてほしいと思います。

・　「亡くなった人より生きている人を」と言う人もいるだろう。でも生きている人のために死を重んじるのだ。

・3.11は避けられない話題。でも岡山にいると、全然別世界の出来事って感じがする。折に触れて3.11のことに触れる本は紹介していきたい。個人的には、普段読まない子よりも、いろいろと読んできている子に「こういうのもどうぞ」と渡したい1冊。

・亡くなった人ときちんとお別れすることの大切さがわかります。

・ぜひ知ってほしい。かけがえのない人の死と向き合うために必要な、大切な職業です。

・震災の影で復元納棺師という人々の活躍があったことをもっと多くの人に知ってもらいたい。

・身近な人が亡くなった時、こんな人がそばにいてくれたらいいなと思いました。

・どのエピソードも胸にくる。文章の一つ一つから著者の心のあたたかさが伝わってくる。

・故人を安らかな表情に戻して棺に納める復元納棺士。あまり表に出ないけれど、とても大切な仕事だと思う。

**一般２位　挫折を愛する　松岡修造　　４０点**

・方法論ではない。松岡修造さんの本を初めて手にする人にもオススメ。

・挫折は飛躍のチャンス！前向きな気持ちになれます。

・挫折を知る人は、何かを本気で取り組んだことのある証だ。この一言に尽きる。これだけで読もうって気になる。ＴＶとかで見る本人のイメージもあるだろうから、「え～松岡修三かよｗ」「騙されたと思って読んでみなって！」みたいなやり取りでもいけるだろう。頑張ってる人、頑張っていて折れそうな人にすすめたい。もちろん大人にもおすすめ。

・熱いセリフばかりが前面に出ている“修造”、実はこんなにすごかった！

・ダメな自分を変えようと努力する著者に勇気づけられる。

・自分を信じる勇気が出る本です。自分に自信がない人、モチベーションが上がらないと悩む人に薦めたい。

**一般３位　僕はミドリムシで世界を救うことに決めました。　出雲充　　３４点**

・友人、会社、ミドリムシ･･･。出会いは人生の財産だ！

・ミドリムシも迷いも挫折も、くだらないものなんかじゃない。挑戦する勇気と自分の意志を貫く強さをくれる。

・おすすめｺﾒﾝﾄ　やりたいことがあるけど、理由を見つけてはそこから逃げる。実行しない。そういう子は多いんじゃないかな。著者も割とそういうタイプで、読んでいて共感する部分が多々あった。でも最終的にはやっぱり行動を起こすとか、他者とかかわって生きるのが大事と気付かされる。在学中でも卒業後でも、新しいことに挑戦するのはハードルが高いように感じるけど、その最初の一歩を踏み出せばこんなにも世界が広がる（かもしれない）ということを教えてくれる気がする。

・他人の人生にこんなにワクワクしたの、初めてです。

・ミドリムシの可能性だけでなく、ビジネス書としても興味深く読めます。

・読む前と後とで、こんなにミドリムシの印象が変わるとは！ぜひ読んでください。

・理系本かと思っていたら進路本だった。状況の変化に直面しつつも、未来を切り開いていこうとする姿に元気をもらえる。

**一般４位　エンジェルフライト　佐々涼子　　３３点**

・遺族が愛する人の死と向き合えるように、今日も奮闘する人がいる。「命の重さ」が見える本。

・初めて知る事実に胸が重く落ちていく感覚。でも目を背けなかったのは、愛を感じたから。考えさせられる。

・グローバル社会になればなるほど、重要度を増していくこと。知っておくべき事だと思います。

・生と死について考えさせられるとともに、仕事に対する真摯な姿勢も学べる。

・人は体と心(魂)で生きているのだなと改めて思いました。いい本に出会えました。

・海外で亡くなった方をできるだけ良い状態で遺族のもとに送る国際霊柩送還士。復元納棺士とも共通しますが、表にでないけれどこういう職業があるという事を知ってほしい。

**一般５位　本当に「英語を話したい」キミへ　川島永嗣　２６点**

・読みやすい。英語の勉強法ではなく、あくまで川島選手の体験談として読むべし。

・大事なのは話せるようになって何がしたいか、という視点が新鮮。ダイエットなどにも応用できそう（痩せて、それでどうしたいの？）。

・何でも無理だと思いこまずチャレンジする勇気がもらえる本です。

・外国語でコミュニケーションをとりたい人に、非常に参考になる本。

・英語を話せるように試行錯誤して勉強した実体験が、英語学習の参考になる。

・英語を話せるようになりたい人に、チャレンジする勇気やモチベーションをくれる本。

・夢をもつこと、目標をもつことの大切さを教えてくれる。